

日本海洋学会秋季大会シンポジウム「中緯度大気海洋相互作用研究の現状と展望」

日時:2021年9月18日(土)13:00~17:30

会場:オンライン(zoom)

主催:日本海洋学会

共催:新学術領域研究「変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用 hotspot」

コンビーナー:野中正見(JAMSTEC)(代表者)、平田英隆(立正大)、岡英太郎(東大)、飯塚聡(防災科研)

趣旨:

高分解能の衛星データの登場や数値シミュレーション技術の発展、さらに新学術領域研究「気候系の hotspot」において実施した大気と海洋の集中観測により、中緯度海洋が大気へ能動的な働きをするという海洋学と気象学の概念を変える研究が過去20年において大きく進展した。一方、社会的な関心の強い異常気象・異常天候への中緯度海洋の役割の理解はまだ限定的である。現在実施されている新学術領域研究「変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用 hotspot(通称:気候系の hotspot2)」との共催の下、本シンポジウムでは、海面水温に着目した異常気象・異常天候さらに温暖化などの研究を行っている気象学の研究者から、予測可能性向上に向けた海洋研究に対する要望などの話題を提供してもらい、今後の海洋学が取り組むべき観測、データプロダクト作成、数値シミュレーションの在り方などについて意見交換を行う。さらに、大気海洋相互作用研究の新展開に向けた他分野との連携の方向性についても議論を行う。

プログラム:

13:00-13:05 趣旨説明(防災科研 飯塚聡)

13:05-13:20 中緯度大気海洋相互作用と「気候系の Hotspot2」(JAMSTEC 野中正見)

13:20-13:40 気候への黒潮の役割について(東北大 杉本周作)

13:40-14:00 大気再解析における高解像度海面水温データの意義(東大 升永竜介)

14:00-14:20 台風と海洋の相互作用に関する諸研究(琉球大 伊藤耕介)

14:20-14:40 日本の地域気候変化予測研究の現状(気象研 川瀬宏明)

14:40-15:00 全球雲解像海洋結合モデル NICOCO 現状と展望(東大 宮川知己)

15:00-15:20 休憩

15:20-15:40 温暖化と大気の川と豪雨について:地球衛星観測による理解の進展(東大 高藪縁)

15:40-16:00 西太平洋の下層雲とエアロゾル影響:航空機観測による動態解明(東大 小池真)

16:00-16:20 海洋への CO₂ 吸収、その中緯度大気海洋相互作用の重要性(気象研
石井雅男)

16:20-16:40 海洋生物資源からみた中緯度の大気海洋相互作用の重要性(東大 伊
藤進一)

16:40-17:00 国際連携をめぐる現状と展望:CLIVAR、WCRP、PICES(北大 見延庄士
郎)

17:00-17:30 総合討論